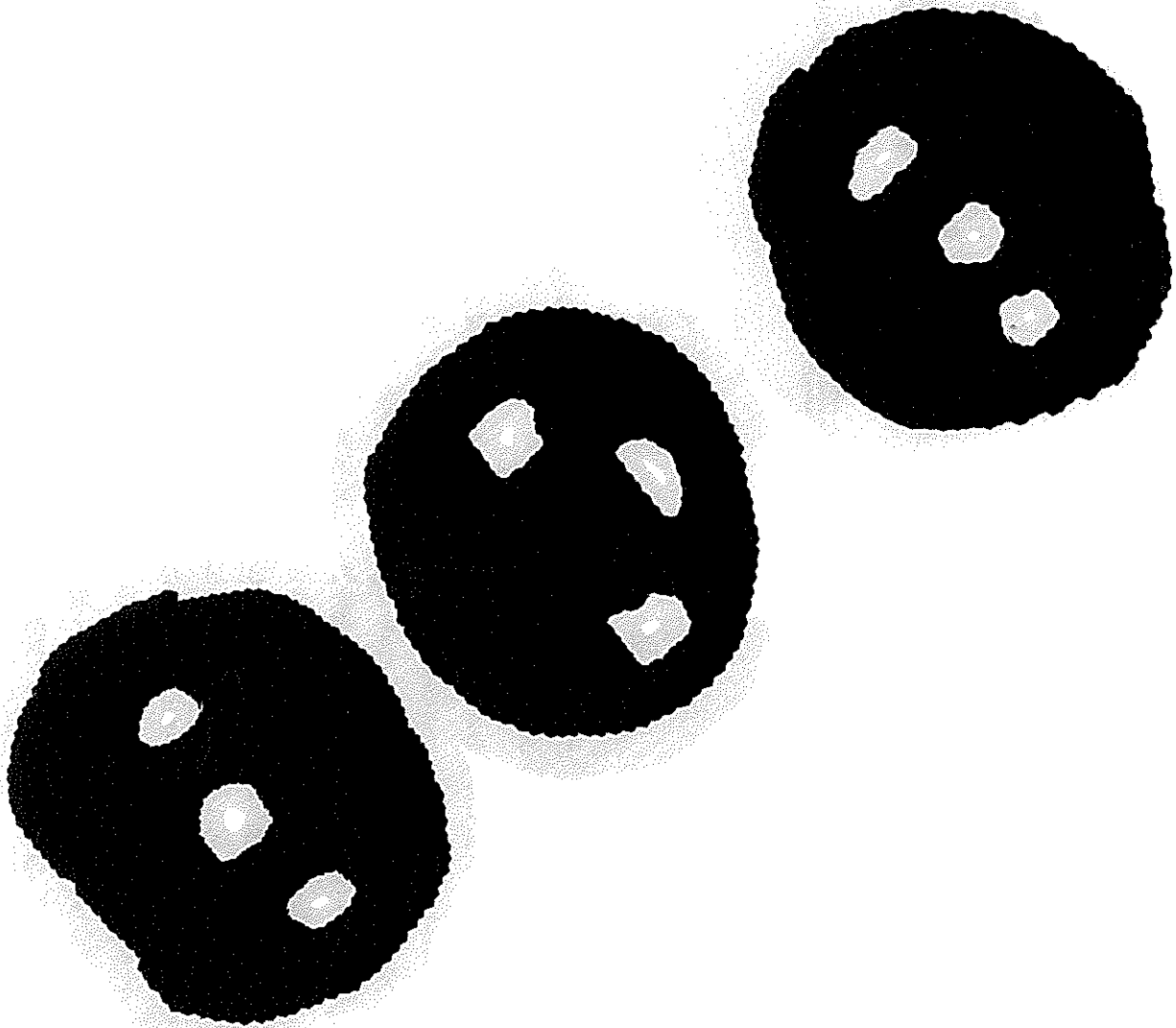


昭和25年2月10日第3種郵便物認可 平成23年9月1日発行(毎月1日発行) 第94巻第10号 ISSN 1341-6669

# 月刊福祉

9  
SEPTEMBER  
Monthly  
Welfare  
2011

特集  
社会保障制度改革のゆくえ



# REPORT 東日本大震災

全国経営協の動き

## 少しでも安心を 覚えていたただけるように

大阪府／社会福祉法人みささき会

木島真也・大田幸広

岩手県大槌町（人口約1万6000人  
余り）は、町の中枢機能が太平洋沿岸部  
にあり、大津波により町役場・病院等の  
建物も人も流され（死者・行方不明者1  
600人強）、壊滅的被害を被った地域で  
す。報道等により被害の状況をわかって  
いたつもりでしたが、現地を訪れて目の  
当たりにした時、呆然としてしまいまし  
た。

### 被害の差によるニーズの違い

町の中心部が海沿いの平地に密集して  
いたため、家も会社もすべて流され、か  
なりの地域が全壊し、人々は丘や山にあ  
る避難所や親戚の家へと避難しておられ  
ました。そして家も仕事も失ったなかで、

「いつになれば仮設住宅へ入れるのか」  
「今後の生活をどうすればいいのか」「義  
援金はいつになれば支給されるのか」と  
いった不安といら立ちばかりが募ってい  
ました。

半壊した家は、家の修理や泥のかき出  
しも済み、避難所から戻ってきた方も増  
えてきていました。しかし、かき出した  
泥の撤去がすすまず、乾燥して異臭を  
放って困っているという声も多数あり、  
そのほかにも、介護に困っている方、行  
政からの情報不足に困っている方などさ  
まざまな「お困りごと」がありました。

住居にほとんど被害がなかった地域で  
も、病院やスーパーが流されたために、  
他市にまで行かなくてはならず、不便を



津波により壊滅的な被害を受けた大槌町役場

感じている方も多くおられました。

このようなさまざまなお困りごとを把握  
するため、今回独自につくったニーズ  
調査票を使って記録し、そのつど行政や  
ボランティアセンターと調整をしまし  
ました。ニーズを把握し、解決策を考え  
てもなかなか実現していかないことにもど  
かしさを感じることもあります。

そのようななかでも被災された方々は  
力強く生活され、困難な状況のなかでも  
仮の店舗で店や診療所を再開し、「国の支

援を待っているんじゃないんで、できるだけ自分たちで生活を立て直そう」「介護サービスに頼らず、家族で面倒をみていこう」とがんばっておられる。そういった方々にも多く出会い、感動するのとともに勇気づけられました。

### 何でも屋として

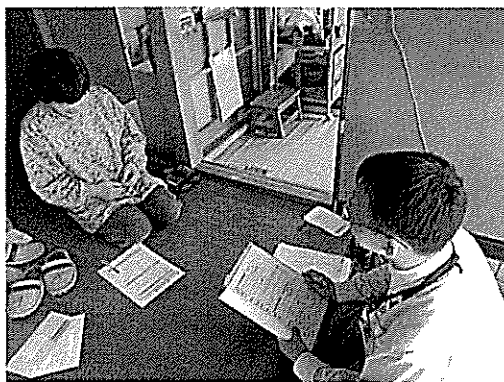
5月中旬、6月上旬ともに15日間、何でも屋として大槌町社会福祉協議会に赴き、家庭訪問を中心とするニーズ調査を担当しました。我われも参画している大



震災から1か月後に完成した大槌町協災害ボランティアセンターのプレハブの事務所。大槌町協の建物も全壊の被害を受けた

阪府社会福祉協議会老人施設部会と大阪府社会福祉協議会が行う、総合生活相談事業（社会貢献事業）という事業があります。乳幼児から高齢者まで、あらゆる方にワンストップで、相談から解決にいたるまで寄り添い、支援するという事業です。

被災地でのニーズ調査は、相談者も相談内容も多種多様で、社会貢献事業で培ったノウハウが大変役に立ったように思います。



家庭を訪問し、調査票を使ったニーズ調査を実施



毎日多くのボランティアが泥の撤去作業に参加

### やり遂げなければならぬ使命

今回、被災地の復興支援の一端をお手伝いさせていただくなかで、多くの親族・知人を亡くし、自らも被災して辛いなかでも、前を向いて生きようとしている方たちに、少しでも寄り添っていききたいと強く感じました。

今後、時間とともに変化していくニーズを把握し、少しでも「安心」を覚えていただけるよう、継続的に支援していくこと、それが私たちがやり遂げなければならない使命であると感じました。